

令和7年度 ボランティア養成講座①・②

令和7年 7月22日(火)・25日(金)



今年度第一回目の「ボランティア養成講座」を本校南校舎3階視聴覚室を会場に、開催しました。参加者は、福島市内の高校生13名と本校の保護者20名です。

開講式のあと、本校小学部主事 武田良教諭より「障がいについて」の講義演習がありました。障がいに関する歴史や法律、また、特別支援学校での具体的な教育内容等についての話を真剣に聞く高校生や保護者の姿が見られました。

高校生と保護者とのグループトークでは、【子どもとの接し方】、【普段の過ごし方】、【高校生に知ってもらいたいこと】の3つの議題をメンバー交換をして話し合いました。その他にも高校生が積極的に質問し、保護者が答えるなど、6グループそれぞれ終始和やかな雰囲気のもと、熱心に話し合いが行われました。

3日後には、本校PTA主催の夏祭りが開催され、8名の高校生が引き続きボランティアとして参加しました。前半は校内見学を行い、後半は夏祭りの各ブースのお手伝いをしてもらいました。

参加した高校生からは、両日ともにとっても貴重な良い経験になったとの声を数多くいただきました。



【開校式・講座の様子】



【グループトークの様子】

【夏祭りの様子】



参加者の感想

高校生より

○障がいについて話を聞き、細かい部分まで観察し考えること、その人の背景や要因をアプローチしていくことの大切さを学びました。「できないから諦める・やらせないようにする」というよりも、共に考え、それぞれに合った出来る方法を見つけ出し、出来る喜びを知ってもらう、分かち合うためにたくさんの工夫がされていること、していることを知りました。障がいと言っても、私たちと何も変わらないということを実感しました。

○夏まつりのボランティアでは、たくさんのお子さんや保護者の方と話し、触れ合えてとても楽しかったです。みんなが笑顔で楽しそうに話していて良い夏まつりだなと思いました。販売所で商品を買っていた事業所のみなさんもたくさん説明をしてくれて、いろいろな良さを知ることができました。

保護者より

○今日は大変勉強になり、このような機会を設けてくださりありがとうございました。

武田先生の「平等・公平・公正」の話には胸を突かれる思いがありました。高校生の女の子からは、気づき教わり、学ばせていただきました。

自分から気を付けていたつもりだったこと、忘れて子どもの心を見ていなかったことなど、改めて思い出し反省できた時間でもありました。

○本やインターネットでは知ることができなかった保護者の方や現場の先生の生の声を聞けて良かったです。自分の子どもがあいさつをしてもらっただけで嬉しかった、話してくれるだけで嬉しかったという保護者の話を聞いて障がいのある子ではなく、個人個人の個性ある子たちなのだと思います。より特別支援教育に興味をもったので、今後の活動も頑張りたいと思いました。

○会話をするときには、否定的な言葉を使うのではなく、肯定的な言葉を使って接する、相手の目線に立って話すことを心がけたいと思いました。また、今日の講義やグループトークで、生徒さんたちが成長することによって喜びや感動を感じることができると保護者さんから聞いて、自分もサポートをしたいなとより一層思うことができました。

○講義を聞き、学校での具体的なかかわり、支援例を知ることができ、とても良い機会となりました。学生が、障がいについて興味関心をもってもらうことについては、保護者としては、とても嬉しく思います。

○武田先生の講義では、学校での指導が分かる例も多く、面白かったです。今後もっと障がいのある人に寄り添ってくれる人が増える、若い子たちが希望の持てる世界になることを祈っています。

